

保守にまつわる労力が 100 分の 1 に！ ランニングコストの削減と同時に、全店舗での スケジュール共有により業務効率化も実現



島村楽器株式会社

〒132-0035
東京都江戸川区平井 6-37-3
www.shimamura.co.jp

郊外型ショッピングセンターを中心に 38 都道府県 160 店舗を展開する、楽器売上高国内ナンバーワンの総合楽器店・島村楽器株式会社。楽器販売のほか、音楽教室運営事業、オリジナルブランド商品開発など、楽器にまつわる事業を多彩に展開する。昨年は弦楽器とクラシックギターの取扱に特化した、店舗・教室・工房一体型の専門店「シマムラストリングス秋葉原」をオープンしたほか、初の海外進出（北京）も実現。精力的に事業を拡大し続けている。

島村楽器株式会社
管理部情報システム課
山川 竜氏 / 石井 努氏

課題と効果

課題

1

社内メールシステムが不安定で、その保守と管理が大きな負担に。早急な新システム移行が求められていた

効果

1

G Suite のビジネス用 Gmail に完全移行することで、社内の負担が激減。大容量添付ファイルなど、昨今の利用スタイルにも対応できるように

課題

2

独自に Web サーバーを立てたり、Wiki を利用したり、社内での情報共有手段が分散。設置と管理も面倒だった

効果

2

Google サイトで社内ポータルやプロジェクト単位のポータルを構築。Google ドライブなども併用し情報共有を一元化

課題

3

約 160 ある店舗で働く 2000 名のスタッフの勤務場所の把握に適切な手段を用意できておらず、混乱の原因となっていた

効果

3

Google カレンダーを導入することで、異動先の一元管理が可能になった。見やすいガジェットも開発

何が問題だったか？

メールのサルベージが情報システム化の“通常業務”に

2010年頃の島村楽器株式会社は、当時同社で働いていたスタッフ約1800名分のメール（店舗アカウントは共有だったため、約400アカウント）を社内サーバーで運用。メールクライアントにはオープンソースのThunderbirdを利用していた。同社情報システム担当の山川氏は当時をふり振り返り、「このシステムを組み上げた当初（2000年）は問題なかったが、メール利用頻度の向上や、添付されるデータの増大などによって、この頃にはトラブルが頻発するように。破損したメールボックスをサルベージすると

いう作業が情報システム課の通常業務になっていました」と言う。

そこで新しいメールシステムへの置き換えを検討したのだが、当時主流になり始めていたWebメールシステムは、従来のPOPメールシステムよりもコスト面での負担が大きく採用に踏み切ることができなかった。「オンプレミスでこれを実現しようとすると、従来システムの数倍の費用がかかることがわかりました。トラブルを根本的に解決したい気持ちはありましたが、さすがにこれは厳しい」

どのように検討・導入したか？

コストと高機能のバランスが決め手に

そんな中、狙上に上がったのがGoogleのクラウド型オフィススイートG Suite。山川氏が衝撃を受けたのは何よりその価格だったと言う。「当時、クラウド型も含め、いろいろな可能性を検討していましたが、G Suiteはそれらの中で断トツのコストパフォーマンス。メールボックスのサイズや機能など、これほど高機能なものをここまでの価格で提供しているサービスはほかに見当たりませんでした。従来システムと比べても、ほぼ同額かそれ以下だということだから驚かされました。その後、より具体的に導入を検討するために参加したセミナーでGoogleの営業担当者から採用しない理由を問われ、一つも思い浮かばなかったことで導入を決心しました」

もちろん、オンプレミスからクラウド型に移行することには社内から懸念の声も上がっていた。また、これまでと使い勝手が変わってしまうことに対する現場の不安も少なからず伝わってきた。「セキュリティ上の懸念については、これを丁寧に、説明していく

ことでこれを解消していきました。操作感の変化については、スタッフ各人に個人向けGmailサービスの利用を推奨。あらかじめWebメールに慣れ親しんでおいてもらうことで、業務メールシステム移行に伴うストレスを軽減できるよう配慮しています」

なお、移行の際、現場からの声でもっとも多かったのが、Gmailの見た目（UI）に対する違和感。Thunderbirdなど、当時のメーラーは3カラム方式が主流だったため、Gmailの2カラム表示が見づらい、分かりづらいと言う意見もあった。「とは言え、これは単に慣れの問題。優れた安定性や、アクセス性の高さなど、メリットの部分を享受するにつれ、そういった声は自然となくなりました」



どんな効果があったか？

メール保守の労力が100から1に。ランニングコストも激減した

まず、目に見えて大きな効果として、それまで情報システム課の“通常業務”だったメールの保守・メンテナンス作業が激減。「それまでの労力を100だとしたら、それが一気に1になりました。無駄な作業が減り、改善や新規導入など、“前に進む”ための業務に集中できるようになったのが何よりありがたいですね」。これに伴いIT部門スタッフの残業時間も激減。月あたり15時間程度、残業の多いスタッフでも20時間程度に抑えられるようになった。

また、G Suiteのメール以外の機能も、島村楽器の業務効率向上に貢献しているとのこと。例えばGoogleサイトを使った社内ポータル構築はその一例。



プロジェクト単位で手軽にポータルを作れるなど、社内情報共有がよりスムーズになった。

「今年2月からは新たにGoogleカレンダーを使ったスケジュールの共有も始めました。弊社はその性質上、エリアを担当するマネージャーや店長、技術スタッフが複数店舗を移動するので、それを一目で分かるようにしました。そして何より、これらを1つのアカウントでまとめて管理できるようになったことがG Suite導入、最大のメリットでした」

また、当初想定していなかった意外な効果として、社内PCのコスト減も挙げられると言う。業務システムの多くをクラウドに移行したことで、必要となるスペックが低下。現在、島村楽器では約1000台のPCが稼働中なのだが、そのほとんどが安価なりサイクル品を利用している。これによって削減されたコストは何と数千円単位。

「これら数多くのメリットを受け、現在弊社では、“Google寄せ”という言葉が生まれるほどに。今後も、さらにいろいろなことを試してみたいです。次は、距離の離れた店舗同士のコミュニケーションが取れるGoogleハングアウトの活用を検討中です」

G Suite

今回の導入プロダクト「G Suite」

G Suiteは、クラウド型のオフィススイート。1人30GBまでの大容量メールボックス、スケジュール管理が簡単にできるカレンダー、共同編集が可能な文書作成、円滑なリモートワークを実現するビデオ通話、動画の投稿や共有、チャット、そして強力無比な検索など、G Suiteには、社内情報を共有・管理し、最大限に活用するさまざまな機能がセットされています。費用は、1ユーザーあたり年間6,000円。IT部門の管理者は、サーバー需要の増加、メンテナンス作業、セキュリティ対策などに悩む必要はありません。

お問い合わせはこちらから
<https://goo.gl/QUu2pL>



G Suiteの詳細については、右記URLもしくはQRコードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。
© Copyright 2016 Google
Googleは、Google Inc.の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

